

2023(令和5)年度 学校経営計画及び評価

1 めざす学校像

全校一致のもと、誠実でやさしさと活力あふれる人間を形成する。

- 1 一人ひとりの個性・才能を生かし、知力・体力を育成する。
- 2 自ら考え、責任ある行動がとれる人間を育成する。
- 3 誠実で品性の高い教養のある人間を育成する。
- 4 男女・民族・ことばの違いを越え、互いの人権を尊重し、平和を願う人間を育成する。
- 5 自然に親しみ、自然とともに生きることが大切だと思える心を育成する。

ヒト・モノ・カネが自由に国境を越えて行き来するグローバルな波は、急速に進展し、社会も急激に変化してきている。その変化に対応する力は、学校生活から培われるもので、中でもコミュニケーション能力や協調性は、家庭だけにとどまらず、学校生活におけるクラスやクラブ活動の中で養われていくものである。単に、グローバル化に対応するだけではなく、グローバル(地域・社会への貢献、人との結びつき、人と人との信頼関係)をも重視する必要がある。グローバルな人材とは、所謂、海外との橋渡し役や地域企業の海外進出を担い、世界に通用する能力をもった人材をさし、中等教育はそれらの力を養う上で、非常に重要な機関であり期間である。よってこれらに対応できるカリキュラムやプログラムを設定していかなければならない。その上で、急激な社会の変化に対応する力を身につけ、自分の進路を自分の力で開き、生徒自身が自己を律し、自立できる力をつけることを目標とする。

学びの変革が将来を変えることに通じる。

デジタル化の波に押された日本の教育は、大きな変革を迫られている。ICT教育の遅れを解決すべくGIGAスクール構想が進展する中、iPadをレンタルで中高全学年に導入した。それは、今までの知識偏重教育から、教師がすべきこと、所謂学びのあり方を変える必要が生じてきているからである。教師がすべきことは、生徒に考える機会を与えること。先生が子どもの学びの伴走者になること。考え方の幅を広げ、生徒の能力を引き出し、伸張させ、人格形成を助長させる取り組みが、今後の教育の根幹となるからである。また、「STEAM教育」所謂「科学(Science)・技術(Technology)・工学(Engineering)・アート(Art)・数学(Mathematics)」の五分野を中心に、日々の各教科活動の中で、語学力(コミュニケーション力、特に英語)、論理的思考や問題解決能力などを身につけさせることを実践していくことを目標とする。

〈課題〉

- (1) 急激な社会の変化に対応するには、教職員の変化に対する自覚が必要であり、「ゆでガエル」「瓶の中の丸虫」になるのではなく、各先生方の教育力を高めて貰う必要がある。既存の体制や固定観念に捕われては、学校教育の変革並びに少子化の状況中で勝ち残れない。
- (2) 財務の安定＝中学の志願者増と入学者増、高校の専願志願者の増加を図る。
 中学においては、公立中学校の取り組みや他の私学(本校に入学させるメリットは何か)との差別化を図る。高校においても、併願校の取り組み以上の教育内容の充実を図らなければ、専願志願者増は望めない。
- (3) 中学入学生徒の学力格差の是正。上中下三層の生徒が混在する現状では、各層の学力に応じた授業展開が必要であり、その対策を講じる。

「徳育」を教育の中核に据え、知・徳・体のバランスある人格を備えた、自律、自立できる人間力豊かな生徒を育成する。



2 中期的目標

1 疑問(なぜ)から納得(なるほど)へと学びの質の変化に対応した学力の育成を図る。

本校の生徒実態を踏まえた授業改善に組織的・計画的に取り組む。

- ア 生徒のレディネスに応じた教育内容を踏まえ、「わかる授業、充実した授業および創造性を育成する授業」をめざす。
- イ 探究学習として、学習に興味を持たせるため、自分が興味あることを調べ、発表させることでプレゼンテーション能力を高める取組みを行う。

2 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立を図る。

- ア 3年間、または6年間を見通したキャリア教育を行う。
- イ 学問体感並びに外部講師を積極的に招くとともに、大学訪問を通して、生徒の進路への意識付けを行う。
- ウ 学業と共に、行事や部活動を通して、自身の興味や関心を寄せるスポーツや学問、文化などに親しみ成長の糧とする。

3. 学校全体としてグローバル人材に必要とされる英語運用能力(リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの4技能)の育成に取り組む、グローバル社会に貢献できる人材を育成する。

- ア 英語運用能力育成の為、資格習得の学習を促進する。
- イ 他者共感能力・異文化理解能力・批判思考力・論理思考力などの力を育成する。
- ウ グローバル人材を育成する海外研修プログラムを実施する。

4 安全・安心で魅力のある学校づくりのための組織の確立

- ア 保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の教育相談体制を充実させる
- イ 保護者に対して積極的かつ効果的な広報活動を行う。
- ウ 生徒理解の促進と、安心・安全な学校づくりのための体制の確立をめざす。
- エ 保護者、地域関係者に対する生徒による校内発表の場への参加呼びかけを拡大するなど地域との交流を図る。

5 教員の授業力の資質向上に向けた取組み

- ア 各教科で研究授業・研究協議を実施する。生徒による授業アンケートを行い、分析し、改善策を検討する。
- イ 教員研修として複数回、人権研修・危機管理研修・教育相談研修などを行う。

3 本年度の取組内容及び自己評価【学校教育自己診断の結果と分析・学校関係者からの評価】

学校評価アンケートの結果と分析 [令和5年12月]	学校関係者評価
保護者、生徒、教職員を対に実施。Web上での回答を行った。配信等に問題はなかったが、保護者の50～60%程度に対し生徒の回答率が35%程度であった。昨年50%に満たなかった教職員の回答率は、呼びかけの効果が70%を超える回答率になった。生徒への呼びかけは昨年同様であったが、この数値については分析と改善を検討したい。任意の記述に関しては、生徒保護者とも全体の5%程度からの回答があった。各項目についての評価としては昨年と同じ傾向にあった。新校舎建設による施設設備面やタブレットの活用の評価が高かった。授業に関係する項目の評価は生徒・保護者ともおおむね70%前後が肯定的であったが、記述回答の中では、特に保護者から、教員によって授業や指導に差があるのではないかとといった意見が多かった。生徒からの記述回答についても昨年同様校則という言葉が多く出てきた。校則が古い、厳しい、といった意見は昨年同様であったが、今年は特に頭髮についての意見が中心だった。教職員からのアンケートとしては、特色や委員会活動、3年間または6年間の見通しを持った教育に関する評価が低かった。	第1回(令和5年7月8日(土)) 第2回(令和6年2月18日(土)) 第1回を終えての評価として、3年、6年の教育の中で、教員と生徒とのつながりによって生徒の意識が大きく変わることがある。特に6年間の中での先生とのつながりが大きいので、学校としてはこの部分を大切に運営を行ってほしい。また、中学と高校とで、行事などの取組みに差があるように思うので、併せて検討して欲しい。校長先生を中心とした挨拶の取組が、生徒の普段の挨拶の習慣につながっているようで、この意識がいろいろな場面につながっていったらと思う。コロナ過を終え、保護者同士のつながりを持つ機会の無さについても改善をしていく機会を設けてほしい。文化祭などの行事を通してのPTA活動などは、その貴重な機会となるので大切にしていきたい。新校舎になって図書館の利用状況が良くなってきている。授業でも活用する機会が増えているようであるが、さらに活用の充実を諮って行ってほしい。第2回の評価として、受験指導については、生徒はもちろん、保護者へのアプローチについてももっと積極的に行うべきではないかとの評価があった。アンケートなどから見えてくることとして色々課題があるが、内部でのコミュニケーションを組織として高めていくことが学校全体の問題解決につながっていくことになるのではないかと。

1 疑問(なぜ)から納得(なるほど)へと学びの質の変化に対応した学力の育成を図る。

本校の生徒実態を踏まえた授業改善に組織的・計画的に取り組む。

中期計画	重点目標・取り組み内容	評価指数・自己評価
わかる授業、充実した授業及び創造性を育成する授業の推進	本校の生徒実態を踏まえ、学習到達目標の点検を行う。各教科共通テストレベルは確実にこなせるようにする。	教員の専門的知識や授業内容については一定の評価を得ているが、改善すべき点の意見も少なからずあるので、今後に生かしていきたい
探究学習として、学習に興味を持たせるため、自分が興味あることを調べ、発表させることでプレゼンテーション能力を高める取組を行う。	企業探究などの充実、授業時等でも発表の場を設けてプレゼン力の向上を図る。	中学生からの授業内での発表等での評価が高い。高校生でもこの評価が上がるよう探究学習を充実させていく必要がある。

2 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立

中期計画	重点目標・取り組み内容	評価指数・自己評価
ア 3年間、または6年間を見通したキャリア教育を行う。	経年の学習成績を一つにまとめ、進路ノートを活用し学習指導・進路指導に役立てる。	総合探求の活動が増える中、予定通りBIノート・進路ノートの活用は各自の取組になることが多かったが、個人としての活用はできた。
イ 学問体感並びに外部講師を積極的に招くとともに、大学訪問を通して、生徒の進路への意識付けを行う。	学問体感(国公立大学教員による出前授業)や教育機関からの講演を行う。大学訪問を計画し、レポートの提出等を行う	学問体感や卒業生を招いての「卒業生に聞こう」や外部講師を招いての進路講演を行った。
ウ 学業と共に、行事や部活動を通して、自身の興味や関心を寄せるスポーツや学問、文化などに親しみ成長の糧とする。	学校行事の充実、学業と部活動の両立を行いやすい環境を整えていく。	クラブ活動での成果を上げながら、国公立への進学を決めているなど、学業と部活動で共に成果上げている生徒が出ている

3 学校全体としてグローバル人材に必要とされる英語運用能力(リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの4技能)の育成に取り組む、グローバル社会に貢献できる人材を育成する。

中期計画	重点目標・取り組み内容	評価指数・自己評価
ア 英語運用能力育成の為、資格習得の学習を促進する。	英語検定等の資格取得率の向上を目指す。	準2級所得者が82.7%、2級以上取得者が35.5%であった。次年度もさらに向上していけるようにしたい。
イ 他者共感能力・異文化理解能力・批判思考力・論理思考力などの力の育成する。	希望者を対象としてオンライン国際交流の導入、ディベート学習会を校内で実施する。	年間を通して、京都大学高大連携の野生動物初歩実習と、希望者を募り、8月、12月にPBL型オンライン国際交流プログラムに参加した。

ウ	グローバル人材を育成するプログラムを実施する。	事前事後学習も含めての海外研修プログラムの実施について、探究の取り組みと関連付けて行っていく。	本年度は活動が無かったが、この春にベトナムの海外研修、夏にホームステイの文化交流を予定している。
---	-------------------------	---	--

4 安全・安心で魅力のある学校づくりのための組織の確立

中期計画	重点目標・取り組み内容	評価指数・自己評価
ア 保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の教育相談体制を充実させる	カウンセラー配置によって、教員間との連携ができ、迅速かつ適切な指導ができる体制を確立する。	担任、保健室、スクールカウンセラーが連携をとり、生徒への対応が行える体制を構築している。
イ 保護者に対して積極的かつ効果的な広報活動を行う。	学校行事などをHPでも紹介し、学年だよりを充実させる。	HPやメール配信、学年だよりの発行を適宜行っているが、もっと行ってほしいという意見があるので、取り組んでいきたい。
ウ 生徒理解の促進と、安心・安全な学校づくりのための体制の確立をめざす。	学校生活アンケート等をもとに生徒のケア体制を確立し、いじめ対策委員会での対応も速やかに行う。緊急時のメール配信体制の確実性を高める。校内での警備体制の見直し、確認を行う。	学校生活アンケートは1学期、2学期にそれぞれ1度ずつ行い、教職員会議で分析し指導に活かしている。いじめの事象も対策委員会を即時開き解決に向けて方針を立てている。 救急救命講習を5月に、緊急メールテスト配信を9月に行った。学校敷地内の防犯について見直しの意見があるので改善策が必要
エ 保護者、地域関係者に対する生徒による校内発表の場への参加呼びかけを拡大するなど地域との交流を図る。	文化祭での地域関係者の参加や、行事、部活動での地域への発表を行っていく。	和太鼓部が、茨木市農業祭、里山まつりや地域の夏祭り、秋祭りにおいて演奏した。

5 教員の授業力の資質向上に向けた取り組み

中期計画	重点目標・取り組み内容	評価指数・自己評価
ア 各教科で研究授業・研究協議を実施する。生徒による授業アンケートを行い、分析し、改善策を検討する。	授業アンケートを7月と12月に実施予定。結果を分析し、改善策を検討する。教科ごとに授業見学、さらに教科を越えて教員相互授業見学と研究協議を行い、授業改善を図る。更に、全体研修会を行う。	予定通り授業アンケートを7月と12月に行い、分析と改善点について検討を行っている。
イ 年度の必要性に応じて、教員研修を複数回、人権研修・危機管理研修・教育相談研修を行う。	教員研修として、人権研修・危機管理研修・教育相談研修等を行う。	4月にセクハラ・パワハラ、5月に熱中症対策、学期ごとにPCスキルUPの教職員向けの研修を行った。